

ペーパーファスナー改良への USIT の適用

MPUF (マイクロソフトプロジェクトユーザーズフォーラム) USIT/TRIZ 研究会
 中村 公一 (MPUF USIT/TRIZ 研究会)、中山 憲卓 (コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社)、牧野 泰丈 (MPUF USIT/TRIZ 研究会)、大森 秀樹 (MPUF USIT/TRIZ 研究会)、青木 和則 (東京計器株式会社)、山田 悦男 (MPUF USIT/TRIZ 研究会)、熱田 達彦 (MPUF USIT/TRIZ 研究会)、瀧本 稔 (富士ゼロックス情報システム株式会社)、アドバイザー: 三原 祐治 (株式会社創造性工学研究所)

概要

MPUF (Microsoft Project Users Forum) はプロジェクトマネジメント (PM) にまつわる様々な課題に関し、会員同士が共にレベルアップを図り PM の質の向上を目的とした NPO 法人。研究会の数は約 20 あり、その中の 1 つである USIT/TRIZ 研究会は 2007 年から活動している。今回紹介するテーマは USIT/TRIZ 研究会のワーキンググループ活動を通じて得られた成果に関するものです。

WG ではペーパーファスナーが現状抱えている課題を達成するために USIT の手法を用いて

1. 昨年に同研究会から発表した USIT ワークブックを利用することによって、手順および行うべき事が明確になり議論が進めやすくなったこと、そして USIT の各 STEP での経過をまとめるのに USIT テンプレート用紙を利用することで結果の共有が有効に図れることを確認した。
2. そのアプローチから幅広い観点の Key Word が得られ、その Key Word から生まれたいくつかのアイデアを紹介する。

内容説明

USIT ワークブックでは項目毎に、先ず「目的」、「留意点」、「作業手順」を上げておき、具体的な「作業」の項目を示した後、事例を記述している。それを見ながら実際の作業に入っていくことになるので、自分達が行っている作業が明確になる。その結果を USIT テンプレート用紙に張り込んでいくことで、作業の STEP を確認できるようになった。

<USIT ワークブックの一例>

1. 課題定義

目的: 「問題」を明確にして達成すべき「課題」をステートメント化して、それをメンバー間で合意する。
 ・既存技術や保有「ソース」の制約を除外して、自由に考える。
 ・コストや納期等は、「6 章 アイデア評価」で考える。

留意点:
 ・解決したい問題をはっきりさせる。「問題点」として書く。
 (「希望」はその表現を裏返して「問題」の表現にする)。
 ・解決したい問題が複数ある場合は、今回解決すべき最も重要な問題を選択する。
 ・ワーキンググループ等複数人で問題解決を図る場合は、メンバー間で合意をとる。
 ・問題の背後にあるメカニズムを分析し、問題の根本原因を考察する。

作業手順:
 ・1-1. 問題状況を説明する。
 ・1-2. 問題状況を図解する。
 ・1-3. 課題を設定する。
 ・1-4. 対象とするオブジェクト(モノ)を指定する。
 ・1-5. 根本原因の推定と検討すべき根本原因の範囲を決定する。
 ・1-6. 中核課題のステートメントを作成する。

<USIT テンプレート用紙の例>



<ペーパーファスナー改良策の例>

USIT オペレータを用いて出したペーパーファスナー改良策の一部を下記に示す。

